

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】令和 3 年 10 月 7 日 (2021.10.7)

【公開番号】特開 2020-145497 (P2020-145497A)

【公開日】令和 2 年 9 月 10 日 (2020.9.10)

【年通号数】公開・登録公報 2020-037

【出願番号】特願 2019-38377 (P2019-38377)

【国際特許分類】

H 0 4 L 9/08 (2006.01)

H 0 4 L 9/32 (2006.01)

G 0 9 C 1/00 (2006.01)

G 0 6 F 21/44 (2013.01)

H 0 4 L 12/22 (2006.01)

【 F I 】

H 0 4 L 9/00 6 0 1 C

H 0 4 L 9/00 6 7 5 B

G 0 9 C 1/00 6 4 0 E

G 0 6 F 21/44 3 5 0

H 0 4 L 12/22

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 8 月 25 日 (2021.8.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 5 0 】

証明書更新部 6 4 は、有効期限が経過した証明書に対して新たな有効期限を設定することにより、証明書の更新を行う。証明書更新部 6 4 は、例えば、通信制御装置 3 0 (3 1) からの更新申請に基づいて、当該通信制御装置 3 0 (3 1) に対して発行した証明書の有効期限を延長させた証明書を発行し、発行した証明書を通信制御装置 3 0 (3 1) に対して送信する。発行した証明書を示す情報が通信制御装置 3 0 (3 1) により受信され、通信制御装置 3 0 (3 1) の IC カード 4 0 の証明書情報記憶部 5 5 に記憶されることで、通信制御装置 3 0 (3 1) の証明書の有効期限が延長される。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 8 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 8 3 】

また、通信システム 1 では、IC カード 4 0 の制御部 5 1 において、相互認証と暗号化復号処理とのうち少なくともいずれか一方を行わせる。このため、通信制御装置 3 0 (3 1) の装置コストを抑制することができる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 1 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 1 1 8 】

また、第 1 通信デバイス 1 1 1 A からの不具合を示す情報を受信すると、通信制御管理装置 5 の制御部 6 1 は、不具合を示す情報の発信元である通信制御装置 1 0 1 の第 1 通信デバイス 1 1 1 A に対して未通信状態となることを指示する（ステップ S 1 0 9）。この通信制御管理装置 5 からの未通信状態への切替指示は、不具合を示す情報の発信元である第 1 通信デバイス 1 1 1 A により取得される（ステップ S 1 1 0）。これにより、第 1 通信デバイス 1 1 1 A のコントローラ 1 2 0 は、通信制御管理装置 5 からの未通信状態への切替指示に応じて動作モードを未通信状態に切り替える（ステップ S 1 1 1）。

【 手 続 補 正 4 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 1 8 4

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 1 8 4 】

自己診断の実施要求に対する結果を取得すると、通信制御管理装置 5 の制御部 6 1 は、自己診断の結果を記憶部 6 6 に保存する（ステップ S 3 1 6）。例えば、通信制御装置 3 0 で自己診断が実施された場合、制御部 6 1 は、自己診断の実行結果を示す情報を実施日時と共に当該通信制御装置 3 0 1 の識別情報に対応づけて記憶部 6 6 に記憶する。また、通信制御装置 3 0 で自己診断が実施されなかった場合、制御部 6 1 は、自己診断が実施できなかった旨の情報を当該通信制御装置 3 0 1 の識別情報に対応づけて記憶部 6 6 に記憶する。

【 手 続 補 正 5 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 2 0 5

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 2 0 5 】

例えば、コントローラ 3 2 0 は、当該通信制御装置における通信量の分析情報に基づき、通信量が最も少ない時間帯で当該通信制御装置 3 0 1 がログ情報を送信できる時刻を送出時刻の候補として選出する。また、コントローラ 3 2 0 は、当該通信制御装置における通信量の分析情報に基づき、通信量が所定閾値未満となる時間帯から当該通信制御装置 3 0 1 がログ情報を送信できる時刻（送出手刻）を選出しても良い。

【 手 続 補 正 6 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 2 0 6

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 2 0 6 】

ログ情報の送出手刻の候補を選出すると、コントローラ 3 2 0 は、選出したログ情報の送出手刻の候補を通信制御管理装置 5 へ送信する（ステップ S 4 2 4）。これにより、通信制御装置 3 0 1 が選出するログ情報の送出手刻の候補は、通信制御管理装置 5 が取得する。

【 手 続 補 正 7 】

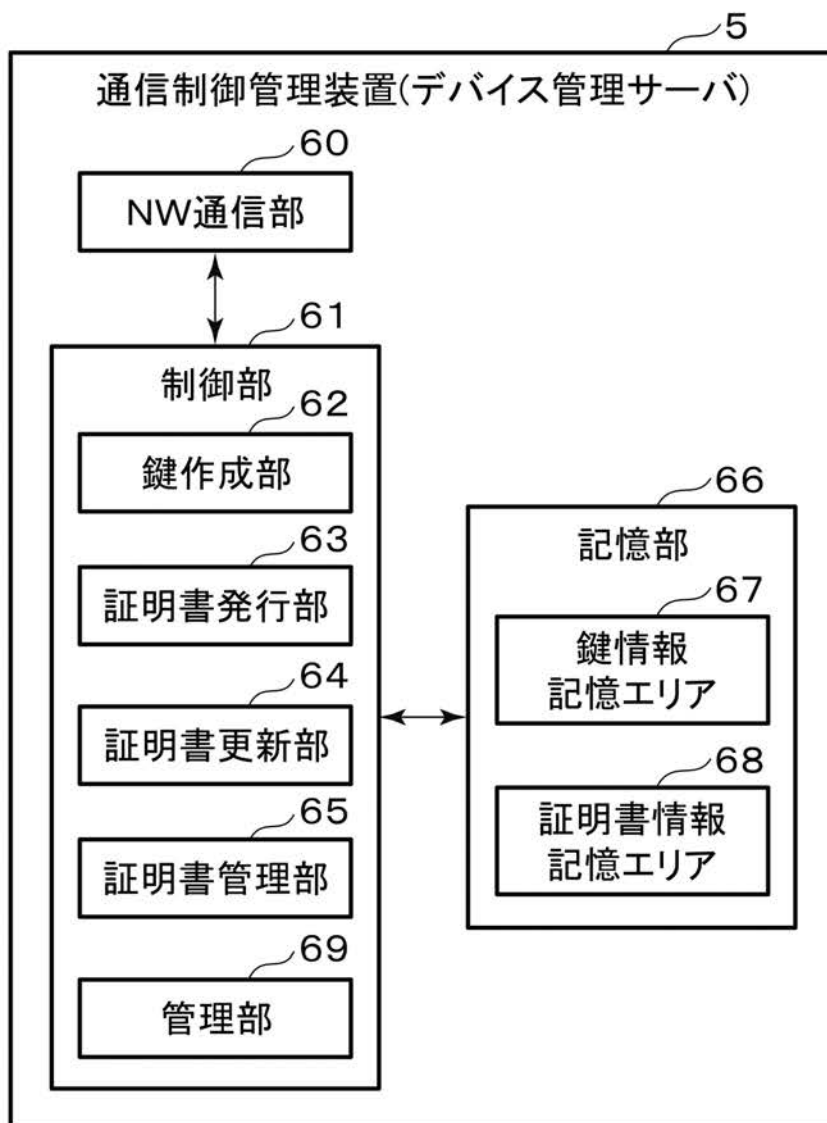
【 補 正 対 象 書 類 名 】 図 面

【 補 正 対 象 項 目 名 】 図 6

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【図 6】



【手続補正 8】

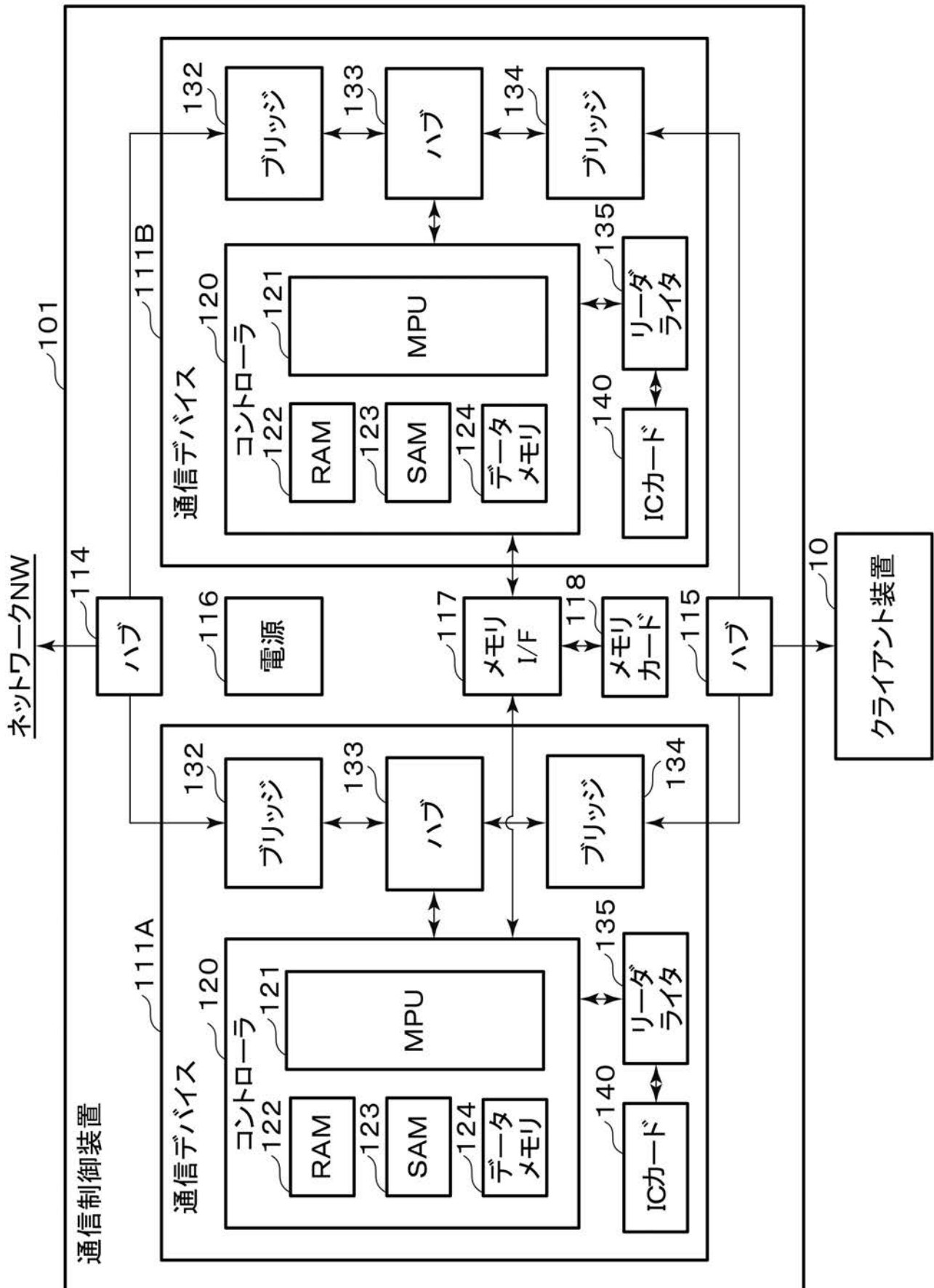
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 9】



【手続補正 9】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 1 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 13】

